
ドジっ娘貞ちゃんと陰陽師

ケチャップ男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドジっ娘貞ちゃんと陰陽師

【Zコード】

N1602W

【作者名】

ケチャップ男

【あらすじ】

主人公の阿部定信と貞子（笑）が送るコメディー小説

追伸：これは、作者の処女小説です。

なので期待しないで下さいww

気付いたら100ユーロ超えてたので。

初めて書いた物つてこともありますが。

なはより見てくれた人は申し訳ないからなー(笑)
読み直してみましたが、うん…まあ中1の時に書いた奴だから、し
ょうがないよね。

書き直すつもりはないです。

ベーベイにメンエイとかそんなんじゃないか（ry）
用一で書いてくれたらいいなあとか考えてますんで、よひじく

ちなみに随时感想募集中です。

2

俺の名前は阿部 定信「アベ サダノブ」通称ノブ 家が陰陽師で自身がオタクな事を除けばいたつて普通な高校生である
急にこんな事を言い出したのは目の前の事実から逃げだしたい気持ちが具現化したいわゆる現実逃避である

そして目の前の現実とゆうのはこのスーパーアルティメット異次元級ドジツ娘の事である

もちろん自分で連れ込んだりした訳じゃなくて友達の持ってきた1本のビデオから始めてきたのである……

ここは愛しのm yルームでありおまけに今日は日曜日まさに国民のほとんどが暇を持て余す日である

そしてそんな暇な学生が一番最初に閃くひまつぶし第一位は無論公園にエロ本やその類のビデオを探すことである（作者統計）
学生時代とはまさに女性の裸体にエロスをみいだす時期で作者いく丁度いい年頃なのである

そして定信もまたその一員であり今日は仲間と一緒に狩場（近所の公園）にエロ本狩りにおもむいたのであった

そして狩り場で隊員Aがエロビデオを採取したのだが

あいにく家電技術の最先端を走る隊員の多くはビデオが再生できる機械を持っていなかつたのだが

仲間達の中で唯一ビデオが再生できる機械をもつてゐる奴がいた
それが我らが主人公定信である

そして都合のいいことに両親が旅行に行つてた定信は仲間達と共に自宅へかえり

ビデオを再生した

すると「ザーッ~」
画面いっぱいの砂嵐

巻き戻したり早送りしても変化はなし

そしてそれを見た隊員達は意氣消沈してそれぞれの家にかえつていったのだが

残された定信は砂嵐を眺めながらビデオの処分方法を考えたそのときだった

ぱつと画面が某ホラー映画にててくる井戸のようなものに画面をかえた

「氣味わるい」と考えながら好奇心で見続けると井戸から「コーア」と白い手がでてきて井戸の端を掴んだ。

その手は、青白くむわあっと体を包んでしまつような、そんな錯覚をおぼえる程の嫌な気が溢れてくるの。^{やがてつるつる}井戸の端に掛かっていた手が消えた。まさか…落ち^たいやいや、そんな訳がないだつてあの気は絶対ヤバいや^たヒューバチヤン^ン画面の中に水しぶきが飛び散った。

こらえきれず吹き出すと頬を膨らしたのロングヘアーレディ^がびしょ濡れになつてゆつくりと出てきた、顔はかみで隠れてみえない。

完全に今まで相手を舐め切つていた定信は、その様子を見て、少しだじろぐ。

そしてゆつくりと歩き^{じょじょ}にカメラに近づいてくる、その女^ヒド^アテ^チ、あつコケた^{さつきまで}の真面目な空気が一転、定

信は大爆笑。

涙目+落ち葉まみれの女^がフルブルしながら立ち上がつた半泣きでやつと画面の一一番近くにくると画面からどんどん体がでてきた

そして体が完璧に出る寸前でテレビの額に足を引っ掛けまた転んだ「ふみやー?うーいたいですよー」

とうとう眞子かぶれの女は泣き出した。

定信はこんな状況で放置できるような度胸もない。しょうがなく慰めてみると

「わ、わたじい、がんばつでえのこー」と泣き声で愚痴をこぼしあじめた。

「はいはいがんばってるよ」

決して泣いてる事を口実にスーパーアルティメットドジッ娘につけ
こもりなんて思つてないぞ

とこりわけであのよだな状況におかれただが……

これからどうするか…選択肢1自己紹介 選択肢2テレビに押し込む 選択肢3襲う 選択肢4親に助けを求める 選択肢5襲つよしますー言「どんだけ、どんだけ性欲まみれじや俺はーー！」

思わず叫んでしまつたがまあい

うーーんやつぱり自己紹介だよなうんそれがいい
さすが俺だぜ 俺は変態だが礼儀をわきまえれる、そつ変態紳士だから

ははははは…あれ？？目から魂の汗が
まあいい名前から紹介でいいよな

「おつすオラゴトイや定信 サダつてよんды」俺の中で最高の爽やかスマイルを浮かべて右手を差し出す

「ほえつ！？わっわたす…私は異土内 ですよつよろしくお願ひしますーーー！」

また噛んだよこの子ww

つていうか握手してくれるのはいいんだがめちゃくちゃいたいっス
ほら手が紫に細胞が俺の細胞がー

「うんよろしく貞子ちゃん それはいいとして痛いんですけど手が痛
いんですけど」

「うへつ！？すいません ゴメンなさい サダ君」「めん」

俺への謝罪を口にしながら高速で土下座しだす貞子ちゃん ふむ悪
い氣はしげふんげふん

「いやいやこちらこそがままをいってすいませんした」

俺も負けじと高速土下座を繰り返す

広い居間の中でも田にも留まらぬ土下座をくりだす男女…

こつして1日はすぎていくのだった

やあ俺こと阿部です。

あの衝撃的な初対面から30分間ずっと土下座をしまくっていた。俺達だが、永遠に続くと思われたそれは、些細な事で幕を閉じた。その原因は…まあ直接聞いて貰つた方が分かり易いだろう。

> ひんぽーん、ひんぽんひんぽんぽーんひんぽんひひんぽん… <

そうこの非常は料着質なインターほんはきーと 好た
くおにいちゃーん。開けてー。ユあスウいーとスうウいーとシスタ

これでわかつて頂けただろう。妹だ。

何故だ？奴は陰陽師として父と幽霊退治に電車も通つてないような山奥の集落にいつた筈じやあなかつたのか？

わらはずに土下座し続けるロイッだ。

をみたら、一瞬で除霊しちまいに違いない。

「はぐ? なんですか?」

二ヶ所が取り締めてゐるが、この際は、この際には、

「あの押入れの中に入つてくれ。」

「へつ?」いや、でも私暗いの苦手ですしね……「いやいや、なんでだよー! お前仮にも有名な幽霊じゃないかー! 幽霊が暗いの嫌いって

どんなのやー！

大丈夫鍵はちゃんと掛けてある、上のがつちりした物理的な方もな。

「えっ！？ 嫌ですよー怖いのー」

「ええい喧しい！！」

一時的に取つ組み合いになる。うぐうぐコイツ力強すぎだろ。

軽く本気で投げ飛ばす。

卷之二

シテムアーキテクチャ

「人間の心」

河野もよかつたかの上

俺はスッと立ち上がりつて無駄に横に広いこの日本系木造建築的家屋

の縦側を通じて玄関は向う

なんだかんだやつてゐ内に玄関についた俺は。鍵と物理的障壁を解除する。

「ベヒー」

きし」と抱き合ってきたのは奴だ。けしてヨニヨギなくできりつだ。

「お兄ちゃんに会えなくて、淋しかったよ——」「ううう。どーどーどー、お歸り、智慧-

この際だからいつとくが俺等には母親がいない、俺が6歳で智慧が

母親は、有名な陰陽師でこの阿部の姓も母方のものだ。

俺はませた糞餃鬼たつたから生ぐは立ち直つたが、智慧は普通の5歳児。母親がいないのに耐えられる筈がない、そこで母親代わりに

運動会見に行つたり。朝ごはん作つたり。洗濯したり。悩みを聞い
たり。

おかげで、家事スキルは上達したが。中学生の時の仇名が青年ババアだったし、この通り智慧妹は俺にベッタリだ。

「「つむり」

さつきまで、胸に顔をスリスリしてた、智慧が急に鼻をスンスンしだす。

「…お兄ちゃん、他の女の匂いがする。」「はあ？」

「私がない間に…浮氣？」

「いや、智慧さん？怖いですよ（汗）」

目のハイライトがない、この状態には何回かなつた事があるが、話題を逸らしても、逃げようとしても無駄だ。方法がない訳ではない、でもそれをしてしまつと、社会的に死んでしまう事になる、諸刃の剣だ。

「浮氣？」

「いやちよ七「浮氣？」

「だk」「…………」

威圧感だけで返事なんて……コイツできる。

「やつぱり、嫌な予感がしたから帰ってきたけど、まさか的中なんてねー……？」

「……ソンナワケナイヨアハハハハ……」

「…じゃあいい私で探す

ゆつくり家にあがつてくる智慧。

ヤバいやばいこのままじゃ俺も貞子もDEAD ENDだ。

選択肢は3つ、そのまま逃げるか、追いかけて説得か、諸刃の剣か。まず、2つ目ま今やつたが駄目だつた。

残つたのは必然的に最初か最後。

貞子を生贊に晒すか、俺が社会的に死ぬか。

答えは決まつて、彼女を置いて逃げるのなんて嫌だが、あれを言うのはもつとヤダということは

「逃げる」

玄関を裸足で飛び出したところでガシッと何者かに掴まれる。

「おい、なに逃げてるんだ」

くつそ！！親父がいたなんて聞いてないぜ！！

「やめろーーー離せーーー俺はあの自由な空へと羽ばたくんだーーー！」

お前が、何処へ飛び立とうと知った事じやないが、せめてアイツ

「Nishin」から始めます

卷之三

卷之三

やべえ内臓が、出たかも。手加減はした。あの状態だと俺は何もできん、さあ行け息子よ

卷之三

そう言い残してさつきの密間へ走る。

要領で足を横に骨づかせる。

襖をその流れで開ける。

二二二

予想以上に強く開いた障子に若干ジギマギしながらも病氣モードの智慧に目を向ける。

丁度ここちを見てた智慧と目が合う。ハイライトの消えた目は怖が

つたが」」で田を驚けたら神経を逆撫でするだけだ。
そして、田を合わせたまま抱きついて、耳元で囁く。

「とにかく智慧が好きなのがいい。選択させたいんだも」

勢いよく爆ぜる蒸氣、近くにあつた耳に熱風が掛る。

ひえ

小声でそういいながら後ろに倒れてく智慧、フツこれで俺もはれて変態の仲間入りだな。

智慧の方に田をやると、壊れたようになにか咳きながら顔を真つ赤にしてる智慧がいた。

「お兄ちゃんは智慧のことがお兄ちゃんは智慧のことが……でへへ
／＼＼＼＼＼＼＼＼

「よ～し起きる～。智慧～」

「でへへへ」

駄目だコイツ早くなんとかしないと。

ズボツ

間抜けな音が響く。

音のした方をみると。

襖に妙に魅力的な足が生えてた。

誤解しないでもらいたいが。文字のままだ。美しい足が生えてる。

一瞬、訳がわからなかつた。

でも、気付いた時にはもう遅かつた。

あの可愛い妹がいたはずの場所には神様でさえ怯みそうな鬼、いや
鬼神が立つてた。

なにかぶつぶつ言つてるが、さつきと違つて聞こえない。

それから後の事は殆ど覚えてない。

ただ一つだけ言えるのは、くもつ智慧は怒らせない。ゝそれだけだ。

2話（後書き）

ここにちは主人公のキャラわ完全に見失つた俺です　ｗｗ
ガチでどんなんだつけ？
えつ？プロット？なにそれ？美味しいの？

設定（前書き）

読み返してみたら矛盾だらけでびっくりwww
つて事でこんな回を作つてみた。

や／＼だよ＼＼。こんなのみで、やんね＼＼よ＼＼。
つて人は新しい方が正規な設定なんですよ＼＼しく。

阿部 定信／あべ さだのぶ／15歳

自称紳士。一応主人公。理想に生きる高2生。チエリーボーイ。陰陽師の家に産まれて、潜在能力は高いがが、本人にやる気がないので、基本的な事しか身についてない。

問題事があると急に冷静になる。

頭は中の下の上。黒目黒髪で顔は中の上。妹に溺愛されてるのが最近の悩み。

阿部 智慧／あべ ちえ／14歳

陰陽師の両親の血を強く引いた陰陽師のエリート。行動原理は99.9%の確率で兄。

兄の女性関係が0なのは、全てこの智慧のせい。

頭は、上の上で、髪はピンクで目は淡い赤、両親ともに黒目黒髪なところから、その類のところで はまことしやかに隠し子説がうたわれている。普通に可愛い。

阿部 雅彦／あべ まさひこ／44歳

阿部家の大黒柱（笑）。腹黒、加虐主義者、根っからの傍観主義。

一応、陰陽師かいでは有名な陰陽師。実施的には智慧の師匠。

ハルヒでいう古泉的なイケメン。

阿部 久美／あべ くみ／34歳

智慧と定信の母親。一人が小さい時に事故死。かつては、最強の名を欲しいままにした、陰陽師。その実力は阿部家一。

貞子 <さだこ> 不詳

読者のみなさんの想像のとつり、長髪で、不気味な女。
顔はとてもいいが、その髪のせいできえない、

ドジッ娘。天然。怪力。

偶然、定信が拾つた、ビデオから出てきた。

設定（後書き）

登場人物が増える』とに書き足していく予定。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1602w/>

ドジっ娘貞ちゃんと陰陽師

2011年10月8日13時37分発行